



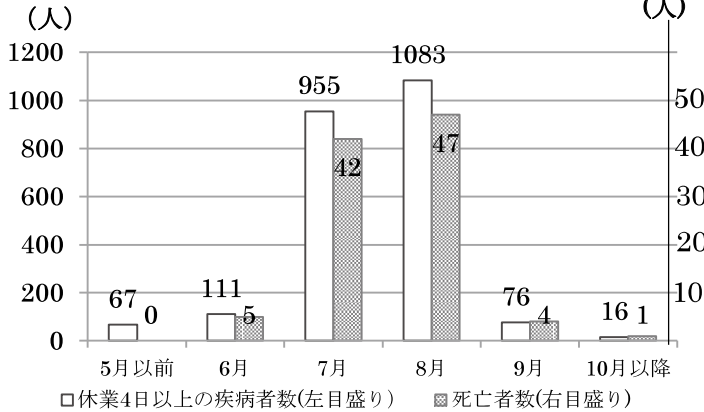
# 「STOP! 熱中症 クールワークキャンペーン」

— 職場における熱中症死亡ゼロを目指して —

## 熱中症を防ごう!

キャンペーン期間：5月～9月  
(重点取組期間7月)

全国の熱中症による月別死傷者数 (平成25～29年計)



平成29年に全国で16人がお亡くなりになりました。この内、次の2件が広島県内の事例です

【事例1】

被災者は災害発生当日、屋根で金属製カバーを運搬する作業を行っていた。作業終了後屋根上で単線回収作業を行い、その後行方不明となった。他の作業員が捜索したところ、屋根上で意識不明の状態で見つめられた。

【事例2】

被災者は災害発生当日、法面防護フェンスに絡んだつる草を鎌で刈り取る作業(除草作業)を終日行い、終業後帰宅しようとして事業場敷地内の駐輪場へ移動した。その後、駐輪場で意識不明の状態で見つめられているところを発見され、意識不明の状態が続いていたが、約1ヶ月半後に死亡した。

### 重点取組期間に行うこと

- WBGT値(暑さ指数)の低減効果を再確認し、必要に応じ追加対策を行う。
- 梅雨明けは、急激にWBGT値(暑さ指数)が上昇するが、労働者の熱への順化ができていないので、WBGT値に応じた作業の中断等を徹底する。
- 水分及び塩分の積極的な摂取や熱中症予防管理者によるその確認の徹底を図る。
- 睡眠等の健康KYを行い、巡視の頻度を増やす。
- 重点的な教育を行う。

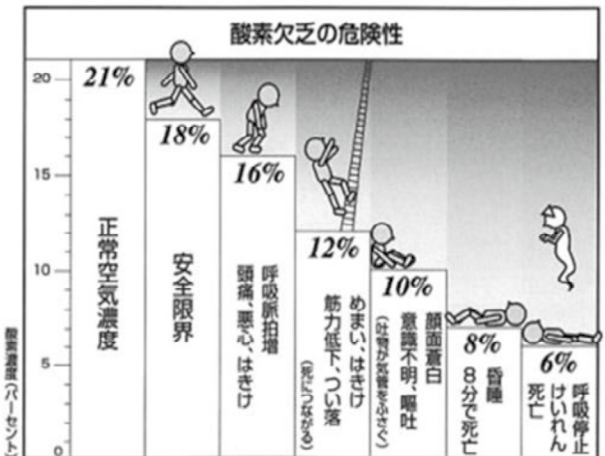


★ 異常を認めたときは、すぐに救急車を呼びましょう。

## 酸素欠乏による死亡災害が多発しています

過去3年の酸欠死亡災害事例

発生年月	年齢	死亡災害発生状況
H28年7月	60歳代	台船のマンホール内部に立ち入ったところ、内部が酸素欠乏状態となっていたもの。
H29年4月	30歳代	船内に立ち入ったところ、内部が酸素欠乏状態となっていたため、死亡。救助に向かった同僚も被災し救急搬送された。「被災者 外国労働者」
H30年3月	30歳代	ドラム破碎機内の金属塊を取り除くため、入った内部は引火防止のため、窒素ガスが充満し酸素欠乏状態となっていた。
H30年4月	20歳代	消火設備の調整作業中、送風ファンダクト内に立ち入ったところ、消火用の窒素ガスが充満していたため酸素欠乏の空気を吸った。



### 同種災害を防ぐには

- 酸欠による災害を防ぐには、測定器や送風機などの設備や特別教育等は勿論ですが、酸欠作業を予定していない労働者にも、どのような場所が酸欠危険場所なのか、緊急時はどのような対応をするのかといったことをあらかじめ教育しておくことが必要です。
- 酸欠等危険場所には、「立入禁止表示」、「立入禁止の措置」も確実に行うことが必要です。